

## 令和3年度 都留市公立大学評価委員会第1回会議の審議要旨

### ◇評価を実施した期間

令和3年7月1日～8月27日

### ◇評価実施の経過

期 間	6月30日	法人から業務実績報告書の提出
	7月9日～8月23日	都留市公立大学法人評価委員会 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面開催とした。
	8月23日	法人への原案の提示
	8月27日	評価書の確定

評価委員 原委員、村田委員、谷内委員、小俣委員、青山委員

法 人 山下理事長、藤田学長、杉本副学長、田中副学長、齊藤事務局長、  
小澤経営企画課長、横瀬経営企画課長補佐、宮下総務課長、  
平井総務課長補佐、久保田学生課長、長坂学生課長補佐、  
山本学生課長補佐

事務局 紫村総務部長、中野企画課長、三澤企画課長補佐、  
園田企画担当リーダー、知念企画担当

### 【本評価委員会の結果について】

・令和2年度は、年度ごとに実施する「業務の実績に関する評価【事業年度評価】」と併せて、「第2期中期目標に係る業務の実績に関する評価【中期目標期間評価】（平成27年度～令和2年度）」について審議した。

・法人より【事業年度評価】の全体評価は、「A：中期計画の進捗は順調」、【中期目標期間評価】は「B：中期目標は概ね達成」と提示があり、評価委員会において内容について審議した。なお、【事業年度評価】については、数値目標の合計が、評価を1段階下位とすることが可能な基準に該当していたが、数値目標に達しなかった各項目の多くは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考慮して事業等の実施を中止したのものや、実施方法を変更したことに伴うやむを得ない結果であるため、全体評価は下げないとの内容が法人より示され、評価委員もその判断は妥当であるものとした。また、中期目標の全体評価については、各年度評価の結果を踏まえたものであり、こちらの評価結果についても評価委員より適切なものとした。

➤よって、【事業年度評価】の全体評価を「A：中期計画の進捗は順調」、【中期目標期間評価】の全体評価を「B：中期目標は概ね達成」として確定した。

・審議に基づき、評価委員会より評価結果書の原案を法人に提示した。法人から内容について特に意見なしとの回答を受けたため、評価結果書を確定した。

### 【委員による意見➤法人の回答】

◇令和2年度に係る業務の実績に関する評価【事業年度評価】における各委員の主な意見及び法人による回答

#### 【原委員】

・教員就職者数（臨時的任用を含む。）について200人以上を目標としているが、減少傾向で推移している。教員就職数は本学のブランドの代表指標と思われる。何

らかの変化が起きているのか。また、教育系大学としての偏差値も国立大より高く、教育系の公立大学としての存在感を確立するためにも、この指標は必要と思われる。

➤本学は、教員養成系の公立大学として長年にわたり全国に教員を輩出しているが、教員を志望する学生が減少傾向にある。一方、教員の正規採用者の割合は上昇傾向にあり、各県、各市の教育委員会や教育関連企業等から採用情報、採用計画、動向等を入手し、1次試験、2次試験対策を強化したことにより、正規採用者数が増えていると考えられる。今後、目標数値を達成できるよう対策を講じるとともに、教育現場が求める資質の高い教員を養成することに重点を置き、きめ細かな指導を実施していきたい。（法人回答）

#### 【谷内委員】

・「TOEIC-IP テストを1年次4月に受験した学生のうち、400ポイント未満の学生を、12月に実施する受験で平均50ポイントUPさせる。」と目標では設定しているが、400点未満の学生は英語の基礎が出来ていない学生のため、彼らの点数を50ポイントUPさせる努力は費用対効果の点で意味があるのかどうか。むしろすでにある程度の点を取っている学生の能力を引き上げる努力の方が重要ではないか。

➤TOEIC-IPテストは、カリキュラムの関係で次年度にクラス分けを行うためにも必要なテストであり、下位層の学生については、グローバル時代に、ある程度の英語力を付けさせることは大学の責務と考える。また、教員免許を取得する学生で英語が苦手な学生のレベルアップも必要と思料。なお、本計画に記載していないが、上位層の学生に対しても更にレベルアップを図れる授業を展開しているところ。（法人回答）

#### 【村田委員】

・「高校訪問を年間400校以上実施」について、新型コロナウイルスの影響で訪問ができなかったとのことだが、想定していた400校と何らかのコンタクトはあったのか。また、今年度もコロナ禍の影響があり、直接の訪問は難航が予想されるが、訪問に代わる代替措置は考えているか。

➤本学を知っていただくために様々な資料、案内等を送付するとともに、高校の進路指導の先生方と連絡をとり、オンラインによる相談会を実施した。本年度においても、可能な限り高校訪問、大学説明会を実施するとともに、オンラインによる進路担当教諭向け説明会及び高校生向けの個別面談も実施している。（法人回答）

#### 【青山委員】

・「新入生入学動機等調査を実施し、調査結果を分析し活用する」ニーズ調査について、達成度を「2」としているが、Webによるアンケートが実施出来るよう準備したとのことであるが、紙ベースでのアンケート調査が実施できなかったのであり、R2年度の達成度は「1」ではないか。

➤新型コロナウイルスの影響により、年度当初から対面での授業が出来なくなり、例年、年度当初に行っていた紙ベースでのアンケート調査は実施できなかった。ただし、実施をするための準備・手配は完了しており取組を全く行わなかったわけではないことや、次年度以降、同様の事態が続くことが想定されたため、Webによるアンケートの調査の準備を進め、次年度当初の調査実施の体制を整えたことから、達成度を「2」とした。（法人回答）

◇第2期中期目標に係る業務の実績に関する評価【中期目標期間評価】における各委員の主な意見及び法人による回答

【原委員】

・「研究の質の向上のため、外部資金の獲得を促進する。」について、科学研究費の獲得は、目標値に達してはいないものの、かなりの伸びを示していると思う。今後さらに獲得を伸ばすためには、どのような施策が必要と思われるか。また個人に対しての評価、インセンティブについて検討しているか。

➤獲得を目指す主な施策として、各教員には科研費の動向、制度や申請書類の変更点等の最新情報の周知を行うとともに、効果的な研究計画書を作成するための「科研費獲得セミナー」等開催する予定である。また、インセンティブとして、科研費応募者・採択者に対して個人研究費の他、「外部資金獲得支援交付金」を交付している。個人に対しての評価については、他大学の状況等を参考に関係部署と協議し検討していきたいと考えている。（法人回答）

【谷内委員】

・「出版助成制度の活用を促進」について、大学 HP の教員紹介の中で研究業績として認めるようにするのはどうか。例えば「外部資金・出版助成など」という項目を新たに設け、科研費などの獲得や出版助成を表彰するなど。

➤大学 HP において教員業績として論文発表や出版助成による著書、また科研費等の獲得状況等について公開しているが、表彰については今後の検討課題としたい。（法人回答）

【村田委員】

・「学生の自主的活動（チャレンジ・プロジェクト）の支援」について、学生の社会参加を後押しする良い制度だと思うが、長所及び問題点等に「現行規程では単年度計画のみで活動期限を当該年度の1月末までとしているため、年度末の活動を伴う計画や年度を跨ぐ計画は対象外となる。」と記載されている通り運用に課題もあると思われる。条件の緩和を検討することが望ましいのではないか。

➤条件の緩和を含め、現行規程の見直しを検討する。（法人回答）

【青山委員】

・「ラーニング・コモンズとして学生の自学・自習スペースを整備」する目標については、新型コロナウイルス感染症の影響における R2 年度の実績を踏まえ、アフターコロナにおけるラーニング・コモンズについて、検討が必要であると思われる。

➤図書館学習室は、対話を想定しているため、感染拡大防止の観点から利用を見合わせてきたが、令和3年度より、今後の安全な利用に向けての検討をはじめているところ。学習室内はスタッフの目が届きにくいいため、図書館側が準備できる物理的な対策（パーティション、消毒、換気、座席間隔など）と併せて、利用学生の感染対策意識（間隔をあけて座る、マスクを外さない、大きな声で雑談しない、など）の啓発も重要になると考えている。（法人回答）